

整理番号	44-23	事務事業名	(芸術文化推進事業) 北広島市音楽団体振興事業		作成部署	生涯学習部社会教育課	電話	内線889
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	可児正樹	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H10	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則					
" 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	エルフィン音楽祭補助金(昭和51年から)と北広島吹奏楽フェスティバル補助金(平成4年から)を平成10年度から統合した。 北広島音楽協会への補助金として支出することにより音楽祭の振興と音楽団体の育成を図る。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	芸術と文化	(第4節)
	施策	芸術文化活動の振興	(第1施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	音楽団体及び市民	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	音楽を通して北広島市における音楽文化の高揚を図るとともに、会員相互の連携と親睦に努めることを目的とする。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	[北広島音楽協会の活動] 若手演奏家によるコンサートin北ひろしま、北ひろしまエルフィン音楽祭、北広島吹奏楽フェスティバルの開催 研修会の開催 会報の発行 加入団体への後援事業 など
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	428	406	400	400
	合計	428	406	400	400
人件費(概算)	人数(年間)	0.002	0.002	0.002	0.002
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	18	18	18	18
総事業費 +		446	424	418	418

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指標	指標(算式)	指標値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会員数(人)	151	152	155	155
	実施事業数(件)	3	3	3	3
	研修会開催数(回)	1	23	24	24
	会報発行回数(回)	1	1	2	2
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	事業参加者総数(人)	1,120	1,250	1,200	1,200
	研修会参加者数(人)	50	310	360	360
	会報発行部数(部)	200	200	200	200
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	事業参加者1人あたりのコスト (総事業費 / 事業参加者総数)	¥398	¥339	¥348	¥348
	会員1人当たりのコスト (総事業費 / 会員数)	¥2,954	¥2,789	¥2,697	¥2,697

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	平成10年度に北広島市芸術文化ホールができたことにより、活動拠点を芸術文化ホールにおいて市民に向けた各種音楽事業を開催している。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	音楽文化を高揚させていくうえで、市民で構成される音楽協会との連携は、市民と行政の協働の観点からも妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市内における多くの各種音楽団体を把握した音楽協会への補助は妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	より多くの市民に対し音楽に触れ合う機会を創出させていくとともに、演奏家を市外から招聘するのみではなく、市民演奏家の手による演奏等を主としていることから適切と考える。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	音楽文化の振興度合いを測定することは困難であるが、音楽事業にどれだけ多くの市民が参加したかにより判断した。	質の高さをはじめ、北広島の独自性の創出、幅広い年代層の参加など、充実を図る必要がある。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市民に対する音楽のふれあいを度合いとして算出した効率指標から考慮すると比較的廉価であると考え。	より多くの市民を(人員的・年代層的等の見地から)参加させる手法を講じていくことでより効率性が高まる。

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	北広島音楽協会は、音楽関係の団体によって構成される本市唯一の連合組織であり、本市における音楽分野の振興を図る上で、今後とも継続して支援していくことが必要である。 また、質の高さ、北広島としての独自性、幅広い年代層の参加、音楽活動領域の多様化に対応するため、質・量の充実をはじめあらゆる手段を検討していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	44-23
------	-------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島市音楽団体振興事業補助金		
交付先の名称及び代表者名	北広島音楽協会 会長 森永 正造	設立年	平成3年
構成員(団体)数	賛助会員7名、個人会員8名、団体10団体、一般会員140名 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	音楽を通して北広島市における音楽文化の高揚を図るとともに、会員相互の連携と親睦に努めることを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	若手演奏家によるコンサートin北ひろしま、北ひろしまエルフィン音楽祭、北広島吹奏楽フェスティバルの開催 研修会の開催 会報の発行 加入団体への後援事業 など		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	428	406	400	
	会費	239	249	240	
	事業収入	85	160	160	
	雑収入	155	0	0	
	繰越金	0	0	0	
	収入合計(B)	907	815	800	
支 出	施設使用料		218	220	
	報償費		221	200	
	印刷製本費		173	170	
	通信運搬費		44	50	
	消耗品費		125	125	
	役務費		34	35	
	事業費	733			
	事業費外経費	174			
支出合計(C)	907	815	800		
繰越金	収入(B) - 支出(C)	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		47 %	50 %	50 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		事業費のみ (事業費外経費を除く)	全ての経費 (事業費)	全ての経費 (事業費)	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		733	815	800	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		58 %	50 %	50 %	
補助・交付金の算出根拠	定額(平成15年度:428千円、平成16年度:406千円、平成17年度:400千円)				